

2012年5月21日金環日食限界線研究会プレスリリース（第1号）

2012年5月21日
金環日食限界線研究会

各位

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。日ごろは当会の活動にご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。さて、すでに報道されていますとおり金環日食は無事各地で観測されました。当会におきましても多くの成功を取ることができました。詳細はまだ取りまとめているところですが、本日午後3時の時点では以下のとおりとなっていますのでお知らせいたします。

1. チーム R（本件問い合わせ 明石市立天文科学館 井上毅 inoue@am12.jp）

天候に恵まれなかった地域もありますが、多くの地域で食の最大のころの観察ができました。各地で食の最大を迎えた7時30分を過ぎたころから、報告サイトには続々と報告が集まり始め、午前9時の時点で金環日食と部分日食の境界がある程度わかる程度にまで報告が集まりました。午後3時の時点では、報告数は1220件、合計10683人、リングになった4371人 欠けたまま5143人 わからない1169人となっています。

限界線上では「リングになった」「欠けたまま」「わからない」が混じりあうような傾向が見られました。NASAと相馬・早水の予報では限界線で4kmほどの差がありますが、「リングになった、欠けたまま」が混在する状況はそれよりも幅が広く約10kmありました。「線」ではなく「帯状」に限界域が分布しているのではないかと推測されます。

また、予報された限界線付近での「わからない」という報告は、天候の悪かったケースなどを除くとNASAと相馬早水の予報の間付近に限界線上に多く位置することもわかりました。今後は、各報告の分布について統計的な解析をおこなうとともに、各地域での詳細な分析を行っていき、結果をまとめる予定です。

報告は午後9時まで受け付けます。

2. チーム B（本件問い合わせ せんだい宇宙館 早水勉 uchukan@bronze.ocn.ne.jp）

全国的に天候などの問題で苦戦しましたが、確認できているところでは兵庫県立須磨東高等学校、三田祥雲館高等学校、一宮高校地学部、長野高専、小和田(浜松市)、富岡(茨城県日立市)、比嘉義裕(南相馬)などで観測に成功しています。十分な精度でベイリービーズを観測できたため、太陽半径の決定につながる観測ができたと考えています。今後早水勉と相馬充が解析し、24日午後に速報をリリースする予定です。

3. チーム M（本件問い合わせ 鹿児島大学 半田利弘）

天候に恵まれた場所での撮影に成功しています。今後は写真を整理する作業をおこないます。

4. 次回プレスリリースは 22日午後3時の予定です。